辰巳だより会

本部秋の例会報告

平成四年秋の例会は、十一月十日　鈴木会長をはじめ二十五名の参加者で行われました。本年は奈良の墨製造元『墨運堂』見学を目的として午前八時五十分、神戸三宮を出発し大阪梅田にて三名と合流一路奈良へとバスを走らせました。前日から当日未明まで雨でしたが雨も上がり薄日の差すまずまずの天候となりました。午前十一時三十分奈良公園の公会堂到着、現地集合組奈良在住の柘植様他四名と合流、全員揃ったところで公会堂内レストラン『能』にて昼食をとりました。食事前に鈴木会長から一言ご挨拶をいただき、再会を祝い、来年は金子直吉翁がなくなられて丁度五十年目に当るため、平成五年全国大会で祭祀を企画準備中の紹介をしていただいた。食後、一般には滅多に見学のできない墨製造元『墨運堂』にて、墨の出来上がる迄の製造工程の見学とその説明と手作りの苦労話に暫し耳を傾けました。約1時間半の見学会でした。その後徒歩にて『墨運堂』と隣り合わせの晩秋の『薬師寺』境内を散策し、午後三時半現地集合組と次例会での再会を約し別れ一路帰途につきました。三宮到着五時、往路・帰路共に渋滞にも合わず事故無くバス例会を終了できましたことを喜びたいと思います。

参加者の皆様大変ありがとうございました。また次回例会までお元気で過ごされます様お祈り申し上げますと共に再会を楽しみに筆を置きます。

（Y・K記）

東京支部　秋季例会

平成四年十月二十七日(火)

神秘の湧水池富士山麓

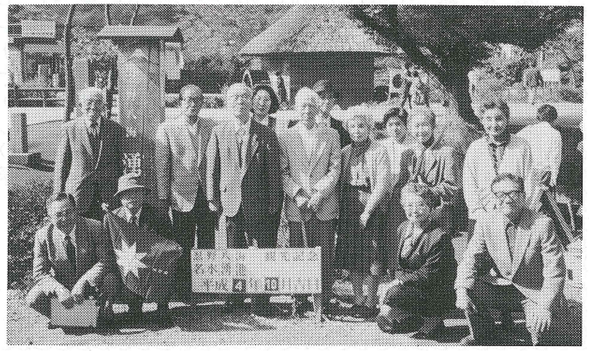
『忍野八海』から

河口湖美術館　ハーブ園行

今日の東京地方のお天気は冬型の気圧配置が緩(ユル)んで快晴に恵まれ、秋高爽碧の北原秋天の様で河口湖方面からの富士山の展望が、お楽しみ番組で今から胸がワクワクする。

いつもの集合場所である東京駅前丸ノ内の旧丸ビル明治屋前で、お多忙中の幹事さん方の心温かい出迎えを受けて感謝しつつ乗車する。

東京支部が選定された丸の内の此処の集合場所は、皇居前御幸通りで両側の樹は亭々として天にそびえている。中でも黄金色の銀杏は白亜の高層ビルにマッチして景観はほんとに素晴らしく正に日本一の良い集合場所である。



定刻よりやや遅れ我々の豪華な藤田観光バスは九時に出発する。参加者十四名。

早速お愛想の良いガイド嬢から『当初予定コースであった東名高速が全線若かえり工事中で渋滞が予想されるので、中央自動車道に変更される』との案内がありました。

つづいて安東幹事さんより恒例のご丁寧なご挨拶と案内があり、先ず会員の中で季節的か今回は海外への出張旅行等が多くて、例会の出席者が少なかった事。来年五月二十日に金子直吉翁の五十年祭を、神戸長田神社で神式により全国大会の際執り行われる。とのご紹介があり、又本日の例会に日商岩井株式会社、植田支部長よりご芳情を賜った事のご披露があって、参加者の皆さん感謝をした次第です。

バスは竹橋I・Cにより首都高速都心環状線に入り順調に走り左手に永田町、右手に平河町を望み、ここは政治の中心村である。数年前に一、六、戦争、今は、一、三、戦争とか云われているゴタゴタの政局が、一日も早く治り国民の為に良き政治が行われる事を祈りつつ、バスははや首都高速四号新宿線経由、中央自動車道へ入り快調に走る。やがてガイド嬢が日商岩井ご提供の旨いビールに、ジュース、お酒、コーヒー、コブ茶、日本茶のサービスだ。車内が一段とくつろいだ楽しい雰囲気になる。バスが八王子ICを通過してから沿線の風景が、がらりと変り山岳地帯の様相を呈するようになり、左はるか下方に東西に長細い美しい緑色の湖面をした相模湖を望み、バスは九時五十八分上野原を通過して、ブドウ、梨、桃の日本一の生産量を誇る山梨県に入る。

十時二分に昔、武田家と小山田家連合軍が北条家と和議の話合いが行われた、と云われている有名な談合坂S・Aに到着して、皆さん下車されてオイシイ新鮮な空気を胸一杯吸い込まれる。十時十八分出発して大月I・Cより左折、河口湖I・C方面に向う。やがて前方方向に待ちに待った八面玲瓏にして秀麗な富士山が真近に見えはじめた。なだらかな美しい裾野が雄大で、更に、筆者が先月中旬に山中湖で見た富士山は雪はほとんど無い夏スタイルであったのが、今や新雪を頂き雪化粧した本来の富士山に戻り今日は実に素晴らしい。これ正に天啓そのものの感がする。この富士に対するや心広く神よろこび豁然として身心頓(タイジン)に暢達するの感があると云った大人(タイジン)がいる。霊峰富士の正面はどこなのか表裏はあるのであろうかと……横山大観の言葉をかりると富士は特有の神秘、厳しさ、美しさをそなえているので心をひかれるとか、**秋深し富士一段と白く在り**　三郎

河口湖I・Cに十時四十六分着、国道一三九号線に入る。今通っている道路は標高七百八十mとのこと。神戸の摩耶山の六百九十九mより高く、あの富士山が如何に高いかが納得出来る。バスは間もなく日本三大奇祭に数えられている吉田の火祭で有名な富士浅間神社の前を通過して、忍野林を通り抜け忍野八海に到着する。

忍野八海は富士山山麓からの湧水を水源とする八つの湧水池（湧池、出口、お釜、濁水、鏡、菖蒲、底抜、銚子）からなり、水量豊富で一日二十三万m^3湧出して農業発電に、又遠く東京方面への貴重な水資源として、利用されていると云われている。

皆さん早速湧水の前で全員記念撮影されて、三三、五五、八海を悠々散策され都心より遠く離れて、澄みきった青空のもと新雪の富士山をバックにして写真を撮られたりして、しばし天下の絶景哉と秋色を満喫された。

新雪の富士を交えて辰巳会　三郎

十一時五十分忍野八海を出発、河口湖きじ亭に十二時六分着、皆さん指定の会席に着席され、昼食はきじ亭有名なきじ料理できじの刺身、栗もちの入った味噌仕立てのきじ鍋……である。ビールと日本酒を酌み交し高尚な美味なきじ鍋を囲みながらの歓談は、まことに楽しい限りでありました。皆さん料理に堪能され食事が終り、十三時十分出発して河口湖美術館に十三時二十分に到着する。

陽光に輝く河口湖に面し芝生等の緑豊かな三万六千三百m^2の広大

な敷地内にある。瀟洒な白亜の殿堂の美術館内に、幹事さんの案内で入館する。今日は丁度フランスのジャガール版画展を開催中で、(1)サーカスよりテーマ、(2)以心伝心より、を画題として晩年の色彩豊かな四つの挿画本と連作版画が選ばれて、彩られた魂の調べが奏でられており、ギャラーでの富士山を愛したアーティスト達の富士山の美しい絵画や写真と相俟って、皆さんの佳き眼の保養になった事でしょう。

十四時に出発して河口湖ハーブ館に十四時十分着、雄大な富士山麓で育くまれた百種類にも及ぶハーブが栽培されているハーブ館に入館する。温室では富士のニオイザクラ、ローズマリー等、ガーデンではイングリッシュラベンダー、イタリアンパセリ、ヒソップ、セージ、チャイブ、コリアンミント、ヤローホワイト……等があり皆さんゆっくりと、香りが漂う構内を巡覧され今度は鼻の佳き保養をされた事でしょう。

十四時四十九分、本日の楽しかった有意義なスケジュールを熟し東京へ向かって帰路に就く。バスは河口湖I・Cを十四時五十分に通過して中央自動車道に入り快調に走り、今日のスターであった富士山も後方へ消え去り一抹の淋しさが感じられる。十五時十七分バスは大月I・Cを通過して本線に入り渋滞もなく順調に入り、やがて新宿近くになり、至れり尽くせりの幹事さんより、お土産として結構な鯉の丸煮の缶詰を頂き、又『来年の新年例会、春季例会に元気で再会しましょう』とのお別れのご挨拶があり、十六時三十分にバスは無事新宿に到着しました。今日一日久ぶりに自然につつまれて土のニホイにふれることができました。皆さん何から何までお世話してくださった幹事さんに感謝の気持一杯で名残を惜しみつつ、元気で再会を約し家路につかれました。

（S・I記）

辰巳会　秋の旅

加藤武城

天高く裏富士長く裾を曳く
秋晴の甲斐の山脈空の紺
冬霞赤城榛名のむらさきに
箱根路の早薄紅葉し初めけり
相模湖の光れる空を鳥渡る
賊も出ず小仏峠秋の風
八海の稲を架くるも景色かな
浮雲を神投げたまふ秋の空
一片の雲もまとはぬ秋の富士
河口湖真二つに割る秋の橋
画展見て虫柱立つ外に出づる
雑鍋を共につつきて旧き友

辰巳会東京支部
秋の例会参加者

平成四年十月二十七日(火)
富士山麓忍野八海　山中湖
（五十音順　敬称略）

安東　浄田　辺　満寿子
今村　三　郎　建　部　清　也
同　伴　同　伴
植田　三　男　西　川　明　子
請川　耿　同
加智　彦太郎　西村　銕次郎　伴
加藤　福雄　安東　恒子
十四名

◆平成五年　喜寿&米寿　対象者紹介

喜寿対象者（大正六年生）

西村正己　横田周作

米寿対象者（明治三十九年生）

福沢有一　小松豊秀
曽根好雄

◆秋の叙勲受賞者

（栄ある叙勲受賞心からお祝い申し上げます）

森　泰助（勲三等旭日中綬章）
㈱神戸製鋼所相談役

◆原稿募集

内容　随想　短歌　俳句　詩
写真　鈴木往時の思い出　近況などを

必ず原稿用紙に縦書で
四百字詰五枚程度

締切　平成五年五月末日

送先　神戸市中央区磯辺通一丁目一ノ三九
太陽鉱工株式会社内
「たつみ」編集部宛

栄町三丁目頃の鈴木商店時代の思出

小原　多喜子

私が鈴木商店に入らせて戴いた時は昭和五年二月末でした。当時お店は整理中の事とて表の看板は東神土地興業株式会社と鈴木合名株式会社の看板がかかっていたと思います。其後太陽曹達株式会社の看板がかかっていた様に思います。建物は昔正金銀行だったそうです。表はモルタル塗になっていましたが全部煉瓦作りだったように思います。金庫室など石造りで頑丈な鉄扉がついていました。書類等重要なものは全部そこに納めていました。建物の隣りは三十八銀行と船主会があり電車道をはさんで横浜正金銀行と山下汽船等立派な建物がならんでいました。事務所の二階は山田商店に貸していまして下を鈴木が使っていました。社員さんは竹内章治様、田中真一様、三木房次様、松岡俊一様、松本健三様、賀集益蔵様、竹内武様、竹岡筍三様、岡清一様、倉谷正義様、前川力太郎様、吉松威稜磨様、松本三平様、安東直市様他にタイピストの古出よね様、信書の池田夏子さんに電話交換手の真継よねさん、後藤ゆきさんとお使いをされる服部丈太郎さん、お留守番の岡亀次郎さん御夫妻と藤縄梅野さんと楠光子さん、この二人は私といれちがいに日沙商会と外人商社へ移られました。当時東京神戸間の手紙のやりとりは箱便といいまして列車のボーイに厳重に作られた鍵のかかった箱を服部さんが夕方の列車に間に合うように持っていって渡しておりました。

重役室には御主人岩治郎様、若御主人の岩蔵様兼用の机と金子様、支配人の大塚清次さん、平高寅太郎様、谷作之助様の机がならび真中には会議用の大きなテーブルがありました。

私達をよばれる時はテーブルの上にある鐘をチンチンとたかれるのですぐとんでいっておりました。重役室にはいつも大塚様、平高様、谷様がおられ御主人や若御主人はあまりお見えになりませんでした。お越しになると御主人は浜口雄幸さんに似た威厳のあるお顔で一寸恐ろしかったですが笑われた時はすごく剛快な笑い声で事務所まできこえる位でした。若御主人はとてもやさくして私などいろいろと細かい事を教えていただきました。お家様も時々買物の序でに立寄られていましたがよく御寮人様や若御寮人様がお供について来ておられました。小原流の国風会花展が元町三丁目の播新さんである時などお見えのようでした。

金子様は安東様をお供で東京、神戸間を往復しておられました。大体東京を土曜日の夜たたれ日曜日に神戸へ来られていましたが時には伊豆の長岡温泉によって月曜に帰ってこられる事もありました。金子様が神戸へ帰って来られますとお客様がいっぱい来られますので大変でした。私など日曜日など全然休めない事が多かったです。お客様のなかでも今でも一番印象にのこっているのは川崎造船所の社長の松方幸次郎様です。いつも来られるとニコニコ笑顔でいい香りのする葉巻をくわえられて大将いるかえといって重役室にはいってゆかれてました。他にも永井幸太郎様や神戸製鋼所の田宮嘉右衛門様や沢山のお偉い方々がお見えでした。金子様も大変だった事と思います。重役会の時など夜中の二時頃まで行われた事もありました。幾年かたって事務所も山田商店が移って行きましたので鈴木薄荷が明海ビルから移って今までの鈴木の事務所にはいられまして私達は全部二階に移り重役室も二階山側になり今までの重役室が食堂になりました。社員さんも松岡さんは早くに小樽の大成商事に移っておられましたが竹内章治様は東京の日沙商会賀集様は三菱レーヨンに移られ他の人達もやめられたり亡くなられたりしました。いれかわりに橋本隆正様が来られました。竹岡様や竹内武様、越智望様等は東神土地のお部屋に居られました。私の他に松下重男さんや戦死された友久音一さんも居られましたし、池光よし子さん、電話の方も次々かわられまして、吉永義